

農林水産省 食料産業局長賞

厚岸漁業協同組合 北海道厚岸町(あつけしちょう)
地場水産物の地産地消とブランド化による消費拡大

組織概要

- 代表者 代表理事組合長 川崎 一好
- 所在地 北海道厚岸郡厚岸町
- 構成員 生産者541名
- 活動開始年 平成7年



表彰理由

- 水産物の産地ながら地元で鮮魚店が少なく、町民からの地場水産物を購入できる場所が欲しいというニーズに応え、平成7年に厚岸漁協として仮設店舗での直売事業を開始。その後、町民を中心とした顧客に支えられ、平成12年には現在の店舗へと規模拡大した。その後も消費者に支持されて販売を伸ばし、直売店とインターネット販売で、平成24年度は総額10億8千万の売り上げとなっている。
- 地域住民向けに年4回の特売会を実施しているとともに、地域の高齢者施設や病院、学校給食への食材提供にも活発に取り組む、地元水産物の地産地消に大きく貢献してきている。
- 組合員や職員、地元行政、町内異業種が連携しながら町内が一体となって活動を推進し、地域水産物のブランド化を進めたことで、地産地消のみならず都市部でのイベントも定着し、水産物全体の消費拡大に貢献していることが評価できる。

取組内容

1. 厚岸漁協協同組合直売店「エーウロコ」の運営

平成7年開設の仮設店舗から、平成12年には現在の店舗へ規模拡大し、平成19年からインターネット販売も開始した。平成24年度は直売店が約9億8千万円、ネット販売が1億円で総額10億8千万の売り上げとなっている。

2. 学校給食や福祉施設への食材の提供

平成9年より地元産のコンブ、サンマ、ハナサキガニ、海藻類などを中心に、町内の学校、病院、福祉施設などへ食材を提供する(多くは無償)。長年の供給活動を通じて、地元水産物に対する愛着が地域住民に定着してきている。

3. 地域水産物のブランド化

カキやアサリの「えもんシリーズ」、「大黒さんま」、「大黒しまえび」、「大黒毛がに」等、水産物のブランド化が進められるにつれ、組合員の資源管理意識も高揚している。「大黒さんま」は平成23年に地域団体商標を取得している。

4. 道の駅「厚岸味覚ターミナル・コンキリエ」との連携

平成6年に開設された町内の道の駅の「レストラン・魚介市場」には開設時から食材を供給し、町内外からの利用客に人気となっている。特に、魚介の丼物等が評判を呼び、平成23年から3年連続で「じゃらん北海道」の道の駅人気ランキング・レストラン部門で1位を獲得している。

5. 札幌での「厚岸さんま祭り」や「厚岸毛ガニ祭り」の開催

平成21年より道内の大消費地である札幌において毎年「厚岸さんま祭り」を開催している。23年度からは「毛ガニ祭り」も実施。これらのイベントがメディアに注目されることで、北海道内における厚岸産水産物の消費拡大にも貢献している。